

氏 名	惠 浩 星
学 位 の 種 類	博 士 (経 営 学)
学 位 記 番 号	第 4616 号
学位授与年月日	平成 17 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者
学 位 論 文 名	中国自動車産業の生産体制の再編に関する研究 トヨタ生産システムとの関わりで
論文審査委員	主 査 教 授 坂 本 清 副主査 教 授 翟 林 瑜 副主査 助教授 石 井 真 一

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、中国の自動車産業を取り上げ、中国自動車産業の形成の基盤がどのようなものであるのか、また、1980 年代以降の生産体制の再編が自動車産業を取り巻く環境の変化の下で、如何に行われているのか、その際、とりわけトヨタ生産システムについての導入・展開との関連においてその生産体制がどのように形成・展開されているのかを中心として実証的な検討を加えるものである。このような検討を通じて、改革・開放以降、グローバル化を契機に大きな構造的転換期を迎えた中国自動車産業の生産体制の整備・再編の諸特性およびその生産体制の再編におけるトヨタ生産システムの導入と展開の意義を明らかにするとともに、この再編の過程から次第に浮上してきた中国自動車産業の生産体制の構築に関する 1 つの方向づけを示し、21 世紀の中国の経済発展と国民生活の向上に関わる中国自動車産業の生産体制づくりのあり方を追求することにしたい。

第 1 章「研究の課題と方法」では、中国は自主的に自動車産業を育成するために、日本の生産体制が実現したような独自性のある生産体制の構築を求めているという問題意識を説明し、中国自動車産業における生産体制の再編という研究課題を提示する。その上で、本論文のキーワードである生産体制の意味を整理し、本論文での分析視角および分析の特徴を明らかにする。

第 2 章「中国自動車産業の生産体制形成の背景とその特質」では、自動車産業における生産体制の形成過程について検討し、中国の社会的条件、経済的条件のもとにおいて形成された自動車産業生産体制の構造上の特質を分析する。

第 3 章「中国自動車産業における生産体制再編の特質」では、グローバル化の下での生産体制の再編の特質を明らかにしている。主に改革开放政策が打ち出された 1980 年以降の中国自動車産業の経済的、政治的、市場的環境の変化のもとで行われた生産体制の再編を産業構造の調整という視点から、外資メーカーの進出との関連で分析している。

第 4 章「中国自動車産業の生産システムの再編とトヨタ生産システム」では、第一汽車におけるトヨタ生産システム導入の流れとトヨタ自動車の中国戦略の展開についての考察を通じて、生産体制の再編におけるトヨタ生産システム導入の課題と意義を中国の社会的、労働的、文化的特徴から解明し、中国自動車産業におけるトヨタ生産システム導入の必要性を提起する。

第 5 章「合弁体制下での生産体制の再編－四川トヨタの事例研究」では、1998 年に設立された合弁企業四川トヨタにおける生産体制の形成と展開の実態解明を通して、四川トヨタプロジェクトに対してのトヨタ側の対中進出戦略、四川側の対応およびトヨタ生産システム導入の仕組みを検証している。

第 6 章「国有体制下での生産体制の再編－天津夏利（シャレード）の事例研究」では、国有体制のもとでのトヨタ生産システムの導入過程を分析している。主として、生産工程の特徴、作業組織の編成、作業方式など

の項目を考察する。

第7章「中国自動車産業における生産体制再編の評価と展望」は、本論文の結論として、これまでの分析結果を統合して検討する。まず、四川トヨタとの比較で、トヨタ生産システムの導入における天津夏利と四川トヨタの生産体制上の特徴を分析する。その上で、中国自動車産業の生産体制が今後どのように変化するのか、自動車産業の方向性に関して筆者の見解を提示することにする。

論文審査の結果の要旨

本論文は、中国自動車産業発展の根本要因を「社会主義計画経済体制から市場経済体制への構造的転換に伴う生産力の新展開」にあると位置づけ、自動車産業発達のプロセスを生産体制の変化という視角から分析したきわめて独創的な研究である。

本論文は、つぎのような構成上、内容上の特質を待って論述される。第1に、中国自動車産業の生産体制の歴史的特質が解明される。ここでは、計画経済下の政治的・経済的管理体制、旧ソ連型工業化政策、「大而全」「小而全」などの肥大化組織体制、競争のない「重層的分業構造」、分断化販売市場といった基本的な生産体制の上に築かれた、旧来の小規模で技術水準が低く、労働集約的で生産性の低い自動車産業の生産体制の実態が分析される。第2に、中国自動車産業で進行する生産体制再編の特質が分析される。ここでは、改革開放後の生産体制をめぐる諸環境の変化の中で展開される自動車産業政策、すなわち一方における外国資本・技術導入政策と「三大三小三微」政策、そして1994年「自動車産業政策」による政策的統合、これらを経て急速に拡大する乗用車市場と合併事業の展開のプロセスが、生産体制再編のプロセスとして詳細に分析される。第3に、中国自動車産業の「支柱産業」化を計る産業政策の中心は合併事業政策にあるが、著者は、近年この展開に一定の変化を認める。それは、自動車後発国でありながら自立的に自動車生産大国に成長した日本自動車産業の中国展開である。中国は、日本自動車産業をキャッチアップの目標として位置づけ、日本企業の先端的生産システムの導入をはかりつつ自立的な生産体制の構築をめざしていると著者は考える。こうして、本論文は、日本自動車企業の生産システムの一つのモデルとしてトヨタ生産システムを取り上げ、これの中国での展開が中国企業の生産体制にいかなるインパクトをもたらしているかについて分析する。まず、トヨタ生産システムの展開を歴史的に分析し、会社と従業員の一体化、QCサークルをはじめとする労務管理の改善、トヨタ生産システムに対する理解の前進、チーム作業組織と政治組織の調整の前進、部品メーカーの再編など、社会システム、労働システムの根本的相違を超えた積極的意義が認められると総合的に評価する。次に、事例研究として、合併企業・四川トヨタ、国有企業・天津夏利（シャレード）を取り上げ、国有企業の体質の残存する天津夏利とトヨタのリーダーシップの確立している四川トヨタの異なる展開過程について、現地調査を含む詳細な資料を用いて分析し、トヨタ生産システムの定着度と生産体制の変化の状況を明らかにしている。こうして、本論文は、中国自動車産業の展望について、国産化への展望、企業レベル・産業レベルの中国的生産体制の確立を基本的なスタンスとしつつ、日本の生産システムへの適応問題が最大の課題になると結論づける。

以上が本論文の特色であるが、本論文の評価されるべき点は、第1に、中国自動車産業発達の契機は、改革開放後の自主的産業政策と外国資本・技術の導入にあるとして、発達のプロセスを、「市場経済化」に伴う量的発達としてのみ捉えるのではなく、それらが歴史的に構築された政治的・経済的・社会的諸要因にいかなるインパクトを与え、いかなる変化をもたらしてきたか、そして、それは21世紀の中国の経済発展と国民生活の向上にどのような意義を有するのか、という生産体制の変化の視点から捉えることによって、従来の先行研究にはない問題意識・論点と方法的特徴から、中国自動車産業研究についての新たな知見を示したことである。第2に、四川トヨタ、天津夏利について、現地調査に基づく先例のない詳細な分析を行い、中国におけるトヨタ生産システム展開の現状と特質についての新たな資料を提供したことである。この点は特に高く評価されるべきである。そして第3に、中国自動車産業に関する今後の研究は、生産システムを含む日本企業の中国展開と

の関連でなされなければならないことを歴史的・実証的に展望したことである。

以上、審議の結果、審査委員会は、一致して本論文が博士（経営学）授与に値すると判定した。